

令和元年度事業報告書

平成31年4月1日から

令和2年3月31日まで

特定非営利活動法人高次脳機能障がい者活動センター調布ドリーム

1 事業の成果

年度初めの4/1に新築2階建て現事業所に移転。4/3午前までは耐震工事やNTTの工事、パソコンの設定他、建物不具合の調整など行い、午後から通所を開始した。暫くは嬉しそうな歓声が続いた。1階はリサイクルショップ「夢市」を新装開店した就労継続支援B型事業(以下、就B)に、2階は自立支援・生活訓練事業(以下、生訓)となる。2週間ほど飛田給駅改札で職員がトレーニーを迎え一緒に歩いて道順を憶えて貰った。5月の第37回ドリームサロンでは14年前の初代講師の橋本圭司先生を迎えた。9～10月のラグビーワールドカップ東京スタジアム開催時は午前で終了し職員が駅構内まで送るが海外の方で溢れた通所体験となった。また今年度ひと・まち社に依頼し福祉サービス第三者評価を受けた。また7月の東京都障害者虐待防止・権利擁護管理者研修の内容を6回の職員研修を行い伝達した。また新型コロナウイルス感染対策として、3/6から就Bは在宅ワークに3/17から生訓も在宅リハビリを取り入れた。1年を振り返り生活訓練においては、新規利用者の見学者も多く11名が利用に至ったが毎日通所が少なく、また生訓は2年で終了のため今年度は3人の終了者が出たこともあり、現状は前年度と変わりがなかった。今年度は利用者定員を20名と倍の規模に拡大、家賃も2.5倍に増えたことで大きな赤字を出しているが、常勤職員は入職1～2カ月(2人)のため、高次脳機能障害の支援と理解を深めてもらうため無理のない運営を行った。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	<生活訓練事業> ・各種グループリハビリプログラムやイベント参加などによりリハビリ効果は上がった。 ・コロナ感染対策で3/17から在宅リハビリに替える ・東京障害者職業能力開発校ビジネス総合事務科1名合格	毎月の予定表に基づく	活動センター 西調布体育館 西部センター 青少年交流館	664人 2.7人 ×246日	高次脳機能障害者 1771人 7.3人 ×246日	50815
	<就労継続支援B型事業> ・リサイクルショップ「夢市」の運営。ナスバ(NASVA)の受注郵送作業調布市メール便作業。 ・協働して働くことやイベント参加などにより、リハビリ効果が上がった。 ・コロナ感染対策で3/6から在宅ワークに替える ・東京障害者職業能力開発校グラフィックDTP科1名合格。 ・1名ハローワークと連携就職する	毎月の予定表に基づく	活動センター 西調布体育館 西部センター、 市役所 調布図書館 教育センター	984人 4人 ×246日	高次脳機能障害者 2534人 10.2人 ×246日	
	合同行事 ・日帰り研修旅行 ・地域の福祉まつりに参加 (西部・調布)	9月 10・11月	山梨県河口湖遊覧船・ぶどう狩り 西部センター 調布駅前広場	7人 27人	25人 48人	

高次脳機能障害者とその家族への相談及び生活支援事業	電話及び来所等による相談及び支援	随時	活動センター	30人	高次脳機能障害者及び家族 60人	10
	福祉関係者見学対応	随時	活動センター	20人	福祉関係者 55人	
	当事者会の運営	毎月第4土曜日	活動センター	当事者 54人	高次脳機能障害者 190人	
	家族会の運営 家族会代表：山田伸子氏	・毎月第3日曜日 ・調布市フリーマーケット &調布福祉まつりに出店	活動センター 市役所前広場	家族 33人	家族 100人	
高次脳機能障害に関する普及啓発事業	ドリームサロン講演会のあと当事者と共に語ろうを開催。トレーニー運営委員が定着した。	5月11月	活動センター	60人	一般市民・当事者・家族・医療・福祉関係 190	280
	月刊の「ドリームごよみ」等に関係機関に配布と郵送及びネット配信。・ホームページの更新	毎月	市役所、福祉センター、教育会館、地域自治会長宅、	200人	一般市民・当事者・家族・医療・福祉関係者 2800人	
	毎月、ドリームごよみやイベント案内などが飛田給自治会の回覧板で回覧。	毎月	飛田給1～3丁目 1170世帯	36人	一般市民 2340人	